

令和5年5月10日
総合政策局国際政策課
(グローバル戦略)

「都市開発に関する日印交流会議」第1回スマートシティサブグループを開催

～インド住宅都市省とスマートシティについて議論を交わしました～

国土交通省は、4月19日、インド住宅都市省とともに、「都市開発に関する日印交流会議」の下に設置されたスマートシティサブグループの第1回会合をニューデリーで開催しました。

本会合では、議論のキックオフとして、日印両国のスマートシティに関する政府の取組を共有するとともに、スマートシティのサービスを提供する日印両国の企業も参加し、各社が有するサービスや強みを相手国側にアピールしました。

また、インドのスマートシティの取組への理解を深めるべく、グジャラート州アーメダバードのスマートシティ開発の実例を視察しました。

開催概要

- (1) 日程 : 令和5年4月19日(水) 14:00～17:00
- (2) 会場 : インド住宅都市省
- (3) 主催 : インド住宅都市省、国土交通省
- (4) 出席者 : 約30名(日本側17名程度、インド側13名程度)
[日本側] 国土交通省(垣下大臣官房参事官、石田都市局総務課国際室長他)、
在インド日本国大使館、日本企業(Canon、NEC、Panasonic)、
JICAインド事務所<オブザーバー>
[インド側] 住宅都市省(クナル・クマール国際協力・スマートシティミッション局長他)、
インド企業(Fluentgrid、Larson&Toubro、Quantela、Wipro)
- (5) 結果概要 : 別紙のとおり



スマートシティサブグループ



スマートシティ開発の実例(アーメダバード)の視察

<問い合わせ先>

総合政策局国際政策課(グローバル戦略) 奥本、小林 Tel03-5253-8314(直通)

結果概要

■ オープニングセッション

インド側からは、クナル・クマール国際協力・スマートシティミッション局長が代表して、日本政府及び日本企業の訪印を歓迎する旨の挨拶が述べられました。

日本側からは、垣下大臣官房参事官が代表して、今回のスマートシティサブグループの第1回会合を契機として、今後日印両国で協力し、都市問題や課題に対する最善の解決策を特定していきたい旨の期待が述べられました。

■ パート1：日本政府及びインド政府からの発表

日本側からは、垣下大臣官房参事官が、日本におけるスマートシティ施策とスマートシティを推進するための海外展開支援策について紹介しました。また、石田都市局総務課国際室長が、日本国内のスマートシティ開発事例について紹介しました。

インド側からは、クナル・クマール国際協力・スマートシティミッション局長が、インドにおけるスマートシティミッションの現況として、100都市で7,872のプロジェクトが実施されていること、またスマートシティミッションを実施する上でデータ統合や蓄積を行うプラットフォームの構築とのデータを分析できる人材への投資を重視している旨の発表がありました。



垣下大臣官房参事官の発表



石田都市局総務課国際室長の発表



クナル・クマール国際協力・
スマートシティミッション局長の発表

■ パート2：日本企業及びインド企業からの発表

スマートシティのサービスを提供している日本企業3社、インド企業4社から、各社が有するサービスや強みを相手側にアピールしました。

[日本企業]

- ・Canon
- ・NEC
- ・Panasonic

[インド企業]

- ・Fluentgrid
- ・Larson&Toubro
- ・Quantela
- ・Wipro

(アルファベット順)

■ クロージングセッション

日本側からは垣下大臣官房参事官が、インド側からはクナル・クマール国際協力・スマートシティミッション局長が、今後も定期的にスマートシティサブグループを開催し、日印両国でスマートシティの議論を深めていきたい旨の意気込みが述べられました。